

大学入学レベルにおける英語ライティング能力育成の課題

—英語総合能力判定テストの結果から—

Fostering English Writing Ability at the Freshman Level:
An Analysis of a Letter Writing Task and the Students' Products

石川希美

ISHIKAWA Nozomi

The Otani English Proficiency Test was designed and created in order to evaluate Sapporo Otani University students' English proficiency. This test consists of a speaking and a writing portion. All freshman students of the Faculty of Sociology took the test in August. This paper examines a letter-writing task and the salient features of the students' writings, and discusses what should be taught to freshman students during the first semester.

1. はじめに

札幌大谷大学社会学部における英語教育の方針として、「学生が英語を実際に使ってタスク（課題）を遂行できること」を重視している。それには、ある程度の英語をはやく正確に聞いて・読んで理解できるという受容能力だけでなく、英語を使って話す・書くといった産出能力の育成は大事な要素である。

そこで、通常の授業科目における試験のほかに、「英語能力判定テスト」としてスピーキングとライティング力に特化した試験を各学期末に実施するに至った。なお、この試験は熟達度試験（proficiency test）として位置付けられている。この試験は、学内で問題作成から評価までを実施している。試験にかかわる一切の事柄は、既存のものではないため、まだ試行段階である。

英語教育の趨勢もコミュニケーション能力の育成へと向かい、スピーキングへの指導は高まりをみせている。しかし、ライティングにおいては、中学・高校において英語を「書く」経験の乏しさが言われていて、英語で「書く」練習のほとんどが「単独短文の英訳練習」だという調査結果がある（木村・木村・氏木（編）2010：p.120）。また、高橋（2012）は、国立政策研究所のさまざまな調査から「自由作文では、その大多数が1文ずつ改行して書く脈絡なき箇条書き羅列文」（p.12）だと指摘している。ここから、大学入学時までには、複数文からなる文章を英語で「書く」練習はほとんど経験していないことも考えられる。

本論文では、社会学部地域社会学科1年生44名に対して、前期末に実施した第1回目試験の中から、長文ライティング試験の部分について結果をまとめ、考察する。その結果を分析することで、本学部に入学してきた学生の特徴を見出し、入学前教育および入学期の英語指導、特にライティング指導への示唆を得ることが目的である。

2. ライティングタスクについて

2.1 出題内容

2.1.1 タスク

出題されたタスクは、英語で書かれた手紙文を読み、その手紙の返信を書くというものである。その手紙文（資料1）では、宛先が札幌大谷大学の学生宛てとなっており、現実味があるものと感じられるだろう。また、手紙への返信という課題は、一般的な英語能力試験（例えばTOEIC-SW, 実用英語技能検定試験（英検）の準1級, IELTSのGeneral Writing Task 1）⁽¹⁾でも類似の問題形式が見られ、ライティング能力の測定・評価によく用いられるタスクのひとつである。

2.1.2 解答形式

学生は、パソコンを使って文章を打ち込む。この作業は、CALL 教室にて、WebTube⁽²⁾を利用して行われた。WebTube は、5月頃から毎回の予習指導のために導入されていたため、試験実施の際には、学生は使い方には習熟していたはずだ。しかし、入学時までには①パソコンを日常的に利用していたか、②文章作成に必要なタイピングスキルをどの程度身につけていたか、③英文タイプの知識や経験の有無の3点については調査できていない。

解答時間は、他にもスピーキングや短文英作文など複数ある問題をすべて90分以内に解答するため、この問題に割ける時間は30分から最大でも45分程度を見込んでいる。

2.1.3 評価方法

筆者ではない評価者1名が、4つの項目（文法、語彙、内容、構成）について0-3のスコアで評価を付けた。評価基準は資料2の通りである。この評価基準は、TOEIC-SW⁽³⁾を参考にして作られた。

2.2 ライティングタスクの分析

このタスクは、手紙やメールの内容を読んで理解したうえで行うものになるため、まずは問題文について分析する。文については、省略形をなおし、数字をスペルアウト、「一」を取り除いてから、分析をかけた。表1からわかるとおり、問題として試用された手紙文は簡潔に書かれたものである。

また、問題文の語彙レベルは、JACET8000⁽⁴⁾分析ツール(v8an)を利用したところ、以下の表2の通りになった。

表1 問題文の量的分析

総語数 (語)	127 語
パラグラフ数 (段落)	7 段落
文数 (文)	12 文
パラグラフあたりの平均文数 (文)	3.0 文
一文中の平均語数 (語)	9.8 語

表2 問題文の語彙レベル

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5	Others
Token	103	4	4	1	1	14
%	81.10	3.15	3.15	0.79	0.79	11.02

※本文中に出現しなかった語彙レベルは省略した。また固有名詞などはすべて”Others”としてまとめている。

レベル4が1語 (hearing), レベル5が1語 (sincerely) 以外は, 固有名詞や序数詞を除き, レベル1から3の語で構成されている。また, 総語数の約80%がレベル1であることから, 比較的平易な語彙を使用して書かれた問題文である。レベル1, 2の2000語で英字新聞の75%程度, 平易な読み物であれば90%近くを占めるといわれ, 学生は問題文については, 読んで十分理解できる語彙レベルと考える。

手紙文の内容については, パラグラフごとに見ていけば明らかであるが, 以下の7項目で構成されている。

- (1)書き出しのあいさつ
- (2)差出人の氏名および相手との関係性
- (3)自己紹介 (氏名, 学年及び学校名, 専攻, 趣味)
- (4)北海道旅行の予定と依頼 (北海道のおすすめを教えてください)

(5)希望（札幌で会いたいことおよび返事）

(6)結語

(7)差出人名

3. ライティング試験結果

3.1 学生のライティングの分析

3.1.1 量的な分析

44人全員がこのタスクに解答しており、量的な分析としては以下の表3の通りである。

表3 学生のライティングの量的分析 (n=44)

	平均	最高	最低
総語数（語）	79	128	20
パラグラフ数（段落）	8.98	20	1
文数（文）	12.30	21	4
パラグラフあたりの平均文数（文）	2.66	14	1
一文中の平均語数（語）	6.11	9	4.4

文数が平均 12 文程度であり、解答の中身から、手紙の内容に全般的に返事をしようとしていることがわかる。また、一文あたりの平均語数が 6 語程度であり、その中身としては単文を複数書いているものが多く、接続語でつながれた文は少ない。また、接続語を用いた文でも、接続語の前後で一文ずつ区切られていることが多い。よって、一文中の語数は少なくなり、文数は増えている。多く見られた例としては、理由を説明する際に、接続語の前で一度文が終わって、**Because...**と続く文である。さらに、パラグラフあたりの文数が少ないもの、またはパラグラフ数が

際立って多いものは、一文ずつ改行されているものが目立った。

解答の語彙レベルについて、先ほど同じく JACET8000 分析ツールを利用して調べたところ、以下の表 4 の通りになった。

表 4 学生のライティングの語彙レベル (平均)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	Level 5	Others
Token	62.5	2.5	1.6	1.0	0.5	12.9

解答の語彙レベルは、レベル 1 が平均 62.5 語で、文章の総語数の平均が 80 語程度であることから、学生は非常に基本的な語彙を使って英文を書いていることがわかる。

3.1.2 内容面の分析

また、学生の解答を内容の面から分析すると、以下の 7 項目に分類される。これは、出題された文に沿った内容項目といえる。また、下線を付けた(3)~(5)の部分は、複数の文で述べて説明するべき項目と判断される箇所を指す。

- (1)書き出しのあいさつ
- (2)手紙を受けとったことへの言及
- (3)自己紹介
- (4)相手からの依頼事項への返答
- (5)相手の希望への返答
- (6)結語
- (7)差出人名

ここで求められているタスクは、受け取った手紙へ返答することであるが、設問の指示には、どのような項目に答えなさいとか、どの程度書き

なさいといった具体的な記述はされていない。そのため、具体的にどの項目を含めるべきかは、書き手の判断に任されている。各項目について、解答に見られた特徴をまとめると以下の通りになった。

(1)書き出しのあいさつ

問題文の敬辞表現が Dear...で始まっているためか、それに倣った表現が使われていた。表5からわかるように、「Dear+フルネーム」の書き出しが合計30名であり、語句のあとにカンマをつけたり、ピリオドをつけるなど、その記述形式にはばらつきがある。これは、手紙の書き方に関する知識不足、手紙を書くことへの不慣れさのためと考える。

表5 敬辞表現 (単位:人)

Dear Kathy Smith,	11	Dear Cathy	1
Dear Kathy Smith	10	Dear: Kathy Smith	1
Dear Kathy Smith.	7	Hi Kathy.	2
Dear Kathy,	3	Hello, Kathy Smith.	2
Dear Kathy	2	Hello.	1
Dear Kathy.	1	書き出し文なし	3
Dear Mr. Kathy Smith.	1		

また、敬辞に続けて、Hello./ Nice to meet you.などさらに挨拶を続ける解答も10例あり、スピーキング活動でよく扱われる親しみをこめた挨拶を踏襲して書いているものと思われる。

(2)手紙を受け取ったことへの言及

手紙を受け取ったことについて表現しているものは表6の通りである。

手紙を送ってくれたことに対して感謝の意を述べたり、手紙を読んだ感想・感情を伝えたりしていることがわかる。

表 6 手紙を受け取ったことを示している表現 (単位 : 人)

Thank you (for your letter [email]).	17
Thank you (for your letter [email]). + 感情や印象 (例: I am happy.)	3
その他 (感情, 事実) I was glad to .../ I read the letter from you.	8

(3)自己紹介

問題文では、自己紹介は4つの事柄(①氏名, ②学年及び学校名, ③専攻, ④趣味)が述べられていた。これらについて、学生の解答は以下の表7ようにまとめられる。文法的な間違いを多く含むものや、内容として説明不足のものもあるが、その場合には文中に使われた語句からの項目について述べているかを判断した。

表 7 項目内容の解答数 (単位 : 人)

①—②—③—④	11	①—②	2
④	6	①—③	2
①—②—④	4	①—④	2
③—④	4	①	1
自己紹介なし	4	①—②—③	1
①—③—④	3	②—③	1
②—③—④	3		

項目が出現した順番は、問題文に準じたものになっており、すべての項

目を含んでいる解答が一番多く 11 名だった。

それでは、項目別ではどのような記述があったのだろうか。

表 8 項目ごとの解答数 (単位: 人)

①氏名	②学年・学校	③専攻	④趣味
25	22	25	33

表 8 の通り、項目ごとでは、「趣味」について書いている解答が一番多く、「氏名」、「専攻」が続く。問題文では“Dear Sapporo Otani University Students”とあるため、学校名についてあらためて述べない可能性は考えられる。よって、②が 22 名で項目別では最少人数だったとしてもそれほどおかしくないだろう。

中には、専攻を *psychology*、学年を *junior* とした記述があったが、解答したのは社会学部 1 年生であったことから、問題文をそのまま引き写している、または語句の意味を十分理解していないで使っている可能性がある。一般的な熟達度試験であれば問題視されない点であるが、気になる点である。

また、問題文で日頃の英語学習について記述されていたため、これに関するような内容（英語学習への取り組み、自分の英語能力、英語を教えてほしい）も 20 例見られた。2~3 文程度書いている例もあり、自分の状況を説明しようとする姿勢がうかがえる。

(4) 相手からの依頼事項への返答

北海道旅行で見たらいい場所やしたらいいことを勧めてほしいという問いかけに答え、お勧めする・提案することが求められる。この部分では、ある一か所をあげて、その場所を勧める理由を複数述べたり、または複数の場所を挙げて、推薦する理由や具体的な説明（何が有名なの

かなど) をすることが求められる。しかし、この点は不十分な解答も多い。

学生の解答に含まれた内容は、表 9 のようにおおまかに 4 種類に分かれる。

表 9 お勧めする・提案する表現

①勧める	I recommend <場所> How about go to <場所>?	You should (go to <場所>) I want you to visit <場所>
②意志を伝える (間接的に誘う)	I want to (go to<場所>, eat sushi) together/ with you. I'll take you <場所>	I show you around <場所> I'll cook with you.
③誘う	Let's go	Shall we ...?
④希望や願望	I hope you enjoy	

(5)相手の希望(「札幌でお会いしたい」)への返答

相手に「会える」・「会いたい」か、または「(会いたい)が 会えない」という 2 通りの答えが考えられるが、学生の解答も両方見られた。本文中に明確に書かれているものの多くは、「会える」・「会いたい」という返答で、「会えない」という返答は 2 名であった。問題文で北海道に滞在している期間が示されていたが、これがちょうど夏休み期間にあたることからこのような解答になったと推測される。実際に自分の予定と照らしあわせて書いたと思われ、「会えない」場合には、その理由(「旅行に出る予定がある」)やその他の対処(「私の友達を紹介しましょう」)が合わせて書き添えられていた。また、相手に返事を要請する記述も多くみられた。これは「会える」・「会いたい」の解答が多かったためだろう。

書き方のふさわしさの点では、I am looking forward to...のような定型的な表現でもスペルや文法の正確さに欠けるものがみられる。また、

相手に頼みごとをするには“e-mail please”などは、用件は満たせるだろうが、丁寧な書き方が十分できるとはいえないだろう。

表 10 相手に返事を要請している解答例

Before you came to Hokkaido, e-mail please.	I am looking forward to receive your letter.
I wait your answer.	I'm looking forward to hearing to you.
If you let me know when you arrive to Hokkaido, I will pick you up with my ca[r].	I am looking forward to hearing from you.

(6)結語

手紙のしめくくりであり、文章の終わりを示すものでもある。以下の表 11 のような解答が見られた。

表 11 結語と判断された例（単位：人）

Sincerely yours, (Sincerely your, 2名/ Sinzerely yours 1名を含む)	19	I am looking forward to meeting you.	5
Sincerely yours.	2	I hope you visit Sapporo.	1
See you./See you soon.	3	I'll wait for you! Kathy	1
Take care your trip.	1	なし	5
Thank you.	1	その他	1
Thank you very much.	3		

問題文に倣った表現（Sincerely yours）が一番多くみられる。この解答

も敬辞表現（表 5）と同様に、スペルミスがあるものや、ピリオドを付けた解答が見られた。See you./ Take care.../Thank you. などは、会話表現の知識を用いて書いた可能性が考えられる。特に Thank you. は、文章をしめくりたいという意図は伝わるが、書くことへ不慣れさを示す例だろう。「結語がない」と判断された解答も 5 例あったが、結語が書かれていない場合と、前段の(5)で相手に会いたい、相手からの返事を期待する文が実質文面のしめくりになっている場合の 2 種類があった。“I am looking forward to meeting you.”の 5 名は別にあげたが、パラグラフを分けて書かれていたことと、差出人と会うことを意図していることもあり、文章のしめくりとして書いたものと判断し、「結語なし」にせず区別した。

(7)差出人名

差出人の氏名表記については、以下の表 12 の通りである。氏名の記述については、「名・姓」の順で書いているものが圧倒的に多かった。

表 12 差出人氏名の表記（単位：人）

フルネーム（名・姓）	32
フルネーム（姓・名）	1
From +フルネーム（名・姓）	3
From +名前	1
なし	7

“From”を氏名と一緒に書くことは英文の手紙では通例みられないが、日本語で「〇〇より」といった差出人を明示する表現に影響されていると思われる。

3.2 評価の分析

3.2.1 得点について

合計点は最高 12 点、最低 0 点からなるが、44 名の学生の点数は以下の図 1 の通りである。この集団の最低点は 4 点、最高点の 12 点も 3 名いた。合計点の算出方法は、設定された 4 項目についてそれぞれ 3 点満点のスコアを合計したものであるため、このような得点分布になったといえる。

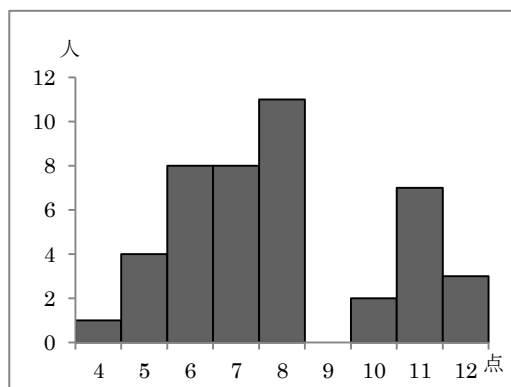


図 1 合計点 (n=44)

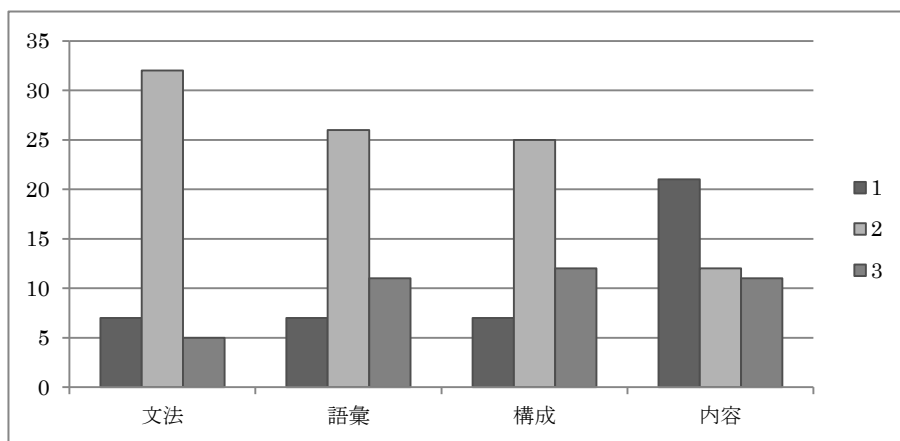


図 2 項目ごとの得点分布

また、図 2 は項目ごとの人数の分布を示しているものであるが、特に「内容」については 3 点中の 1 点と判定されたものも多く、内容は不十分と判断された解答があったことがわかる。

3.2.2 男女の平均点の比較

このテストについて、男子と女子の平均点と標準偏差は以下の表 13 の通りである。

表 13 男女別の平均点と標準偏差

	平均	標準偏差
男子 (n=24)	7.47	3.73
女子 (n=20)	8.55	2.42
全体 (n=44)	7.93	2.21

男女間における平均点の差を両側検定の t 検定により検討した結果、 $t(42)=-1.73$, $p=.09$ であり、これらの平均値は有意ではなかった。男女間で平均値に統計的な差は見られなかった。

3.2.3 習熟度クラスごとの平均点の比較

通常、授業は習熟度別の 4 クラスで行われている。各クラスの内訳は以下の表 14 の通りである。クラスは上位からアルファベット順に並んでいる。

また、習熟度クラス間での平均点と標準偏差は表 15 の通りである。さらに、クラス間における平均点の差を分散分析により検討した。その結果、 $F_{(3,40)}=7.17$, $p<.001$ であり、クラス間における平均値の差は有意であった。さらに、テューキーの方法による多重比較の結果、a と c, a と d, b と d との間でその差は 5%水準で有意となった (表 16)。

表 14 習熟度クラス人数の内訳 (単位：人)

	a	b	c	d
男(n=24)	5	6	7	6
女(n=20)	6	5	4	5
計	11	11	11	11

表 15 習熟度クラスごとの平均点および標準偏差

	平均	標準偏差
a (n=11)	9.73	2.05
b (n=11)	8.36	2.34
c (n=11)	7.46	1.44
d (n=11)	6.18	1.40

表 16 習熟度クラス間の多重比較

クラス	p 値	クラス	p 値
a—b	.32	b—c	.66
a—c	.03 *	b—d	.04 *
a—d	.00 **	c—d	.38

注：* $p < .05$, ** $p < .01$

この結果から、クラス d は上位クラス (a, b) との間で、また上位上クラス(a)と下位上クラス(c)の間でも平均点に差があることがわかった。一方で、上位クラス(a,b)内、下位クラス(c,d)内では統計的に有意な差はない。また、グループ間でも b と c のような隣り合うグループでは有意な差はない。

4. 考察

手紙文のタスクには、全員が取り組んでいたため、問題文はおおむね理解できていたといえる。手紙文を書くうえでは、手紙の形式に則った書き方で書けることと、手紙で伝える内容（返信の場合には相手の手紙の内容を理解したうえでの返答）は相手との関係性にも見合った書き方であることの2点が重視される。今回は同年代の学生からの手紙であったため、2点目にいう関係性に見合った書き方については、他社や顧客などを相手にした場合に求められる丁寧さに比べれば、それほど問題にならなかったかもしれない。

学生のライティングをタスクの内容から考察すると、自己紹介は、中学校からこれまで触れられることの多い内容である。前期に使用された教科書でもそのような内容が含まれていた。よって、自分自身にかかわる事柄については、内容を深めて書けることが期待された。今回、問題文で専攻や趣味についても書かれていたため、このような内容についても書いてあるものが多くみられた。ただし、語彙についてはきちんと理解せずに使っている可能性もあり、注意が必要である。

相手にお勧めの場所を教える・提案する内容は、直接的に推薦する表現のほかにも、手紙にあてた人と一緒にやりたいことを書いて相手を間接的に誘うなど、使われた表現は多様である。しかし、一つ一つの答案を注意してみると、文のつながりに欠けていたり、説明が不十分なものが見られたり、基本的な表現も正確さに欠けるものも少なくない。

書く目的としては、今回は1つの手紙文というタスクの中に2つの異なる目的をもったライティングが必要であった。自己紹介に加え、相手に提案することは相手へ働きかけて、相手に行動を起こさせたりや理解を促すこともあった。この場合、特に後者の相手に働きかける目的のライティングについては、英語で書く経験自体が少ないならば、これまで1度も経験していなかった可能性もある。ライティングを指導するうえ

では、自己表現だけでなく、書く目的や場面を明確にした活動やそれにふさわしい表現を指導していくことが必要だろう。

また、さらに基本的なことでは、英文タイプ（筆記ではなくタイピングすること）の作法を知らないことがわかった。例えば、以下の4つの内容が主なもので、不正確である解答が散見される。

- ・語の直後にピリオドやカンマをおく
- ・カンマと次の語の間は1つあける
- ・ピリオドと次の語の間は1つ（2つ）あける
- ・英数字を英語フォント（半角英数字）にする

大学入学までに、パソコンでのタイピング作業をどの程度経験しているか調査できていないのだが、入学期に英文タイプの基礎的な事項を指導する必要があるだろう。鴨下（2010）は、パソコンの扱いには慣れている学生でも、英語のタイピングの基本的な技術に手間取ったことを指摘しており、正確に書くことを目指した繰り返し書くことの重要性を挙げている。書く経験が少ない学生たちには、手書きでも書く機会をもつほか、簡単な内容が正確に書けているかどうかを確認させるように指導するよう述べている。この指摘と同様に、パソコンのスキルを身につけているからといって、英文タイピングに習熟していることとは必ずしも言えないと認識しておくべきである。

それでは、英語でどの程度書けることを目標にすればよいのだろうか。大学卒業後を見据え、ビジネスの場面で求められる英語のスキルという点から、柴田（2010）によると、北海道道内で海外関連業務を行っているビジネスパーソンを対象にした調査で、仕事で英語を書く場面の34.1%はメールで、海外取引で交わされたメールに使われた使用語彙はJACET8000のレベル4までが9割以上であるとわかった。さらに、メール文の分析では、文構造は比較的平易で、1文あたり10語程度だということも示された。よって、難解な文章を書くことが要求されるという

よりは、むしろ比較的平易な語句を用いて書いて伝えられることが必要で、基本的なことを正確にできるようにすることが重要だといえる。

5. まとめ

ライティングテストの結果から、全員タスクに取り組むことができていたが、書いた内容などを細かくみていくと、総じて英語で書く経験が少なかったり、書き方を知らないために生じる間違いが見られる。そのため、本学で目指す英語で書く・話すといった産出能力を高めるためには、大学入学後の英語授業内で、英語を実際に使って話す・書く経験を積むことが必須だろう。その際に、以下の2点が重要と考える。

1つは、タイピング練習と確認作業を定着させて、正しく書くことへ意識を向けさせることである。学生の解答に、氏名など基本事項に始まり、文章中でもたびたびタイピングミスが見られたことから、タイピング練習の必要性は明らかである。また、作成した文書にミスがないかどうか確認していないとしたら、正確さや間違いに注意を払わないため、気づかないままに終わってしまう。確認作業を習慣化することが、正確に書く力の定着にもつながると期待する。

2つ目は、言語使用の場面に応じた英語表現やその使い方の指導である。例えば、結語として **Thank you.** と書いてあった事例は、話すときに使う表現と書くときに使う表現を区別できていないケースである。このライティング試験では、相手の手紙に返信するうえで深刻な影響を与えるものではないかもしれないが、話す、書くといった場合に応じて使う表現を示すことも必要だろう。また、ライティングの目的を、自己表現にとどめずに、相手に働きかける・説得するといった具体性のあるものを設定すると、対象に見合った表現で書くことの重要性を理解しやすくなる。

同じ学年の学生集団でも、力量にはばらつきがあるため、習熟度別少

人数制クラスのメリットを活かしながら、段階を経た丁寧な指導が必要である。英語のライティング活動において、繰り返し取り組ませられる内容と、書く目的と対象を意識させるような活動を、初年次英語教育のカリキュラムにどのように組み入れていけるかが、今後の結果にもかかわる課題である。

[註]

- (1) TOEIC-SW, 実用英語技能検定 (英検), IELTS の試験内容については、以下のホームページなどを参考にした。
<http://www.toeic.or.jp/sw/about/tests/>
http://www.eiken.or.jp/prepare/grade_p1/index.html
<http://www.eiken.or.jp/ielts/about/test-structure.html>
- (2) WebTube は、北海ビデオが開発した授業支援 e ラーニングシステムのことである。 <http://hokkai-v.co.jp/hp/jigyoweptune>
- (3) TOEIC-SW の問題例と評価基準
http://www.toeic.or.jp/sw/sampletest/pdf/sw_handbook.pdf#1
- (4) JACET8000 とは、大学英語教育学会が日本人英語学習者のために作成したレベル別基本語 8000 語のことを指す通称である。

[参考文献]

- 鴨下恵子 2010 「ビギナーレベルの大学生に対するライティング指導の試み」, 『東京工芸大学工学部紀要』 Vol.33, No.2, pp.55-61.
- 木村博是・木村友保・氏木道人 (編) 2010 『英語教育学大系第 10 巻リーディングとライティングの理論と実践』 大修館書店.
- 柴田晶子 2010 「ビジネスパーソンの声から探る大学英語教育の課題」『北海道地域総合研究』, pp.4-11.
- 大学英語教育学会基本語改定委員会 (編) 2003 『大学英語教育学会基本語リスト JACET8000』.
- 高橋一幸 2012 「授業改善はじめの第一歩」『英語教育』 Vol.61, No.7, pp.10-12.
- 寺内正典 (編) 2012 『英語教育学の実証的研究法入門』 研究社.
- 三浦省五 (監修) 2004 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究—』 大修館書店.

(いしかわ のぞみ, 札幌大谷大学社会学部准教授)

資料1 出題された手紙文

Dear Sapporo Otani University students,

You may be surprised to receive this letter. I am Kathy Smith. I happened to know Prof. Hiraoka in May, and heard that Sapporo Otani students have been studying English very hard.

I'm a junior at West Park College in Boston. I am majoring in psychology. I like outdoor activities and listening to rock music. I also like cooking.

I am going to Hokkaido and staying there for ten days—from August 5th to August 15th. This is my first visit. Will you recommend any places to visit, and things to do or see in Hokkaido?

I hope to see you in Sapporo if you are not too busy. I am looking forward to hearing from you.

Sincerely yours,

Kathy Smith

Kathy Smith

資料2 評価基準

<文法>

採点スケール	採点ポイント
3	文法的誤りがない、または文の理解を妨げない程度の文法の誤りがいくつか見られる
2	文の理解を妨げない程度の文法的誤りが目立つ
1	文の理解を妨げる文法的誤りがある
0	無解答

<語彙>

採点スケール	採点ポイント
3	おおむね的確な語彙・語句や構文を使っている。
2	全体的な意味は理解できるが、語彙・語句や構文の使い方が適切さに欠けることがある。
1	語彙・語句や構文の使い方が不正確である。
0	無解答

<構成>

採点スケール	採点ポイント
3	適切な構成で書かれている。
2	おおむね適切な構成で書かれている。
1	構成に問題がある。
0	無解答

<内容>

採点スケール	採点ポイント
3	十分ふさわしい内容である。
2	おおむねふさわしい内容である。
1	内容としてふさわしくない点（説明不足、関連性が不明確など）がある。
0	無解答